

旅行取扱状況の概観（平成27年1月分）

下記、月次取扱額は、近畿日本ツーリスト(KNT)とKNT個人旅行、クラブツーリズム、KNT北海道、KNT東北、KNT中国四国、KNT九州、ユナイテッドツアーズ、KNT商事の合算額となります。

記

海外旅行の取り扱い、一般団体は前年比76.4%と下回ったものの、学生団体は同141.8%と前年を大きく上回り、団体旅行合計で同93.1%と前年を下回った。企画旅行については同80.1%と前年を下回ったが、個人旅行については前年比99.4%と前年並みであった。

この結果、海外旅行総取扱額としては、前年比86.1%と、前年を下回った。

国内旅行の取り扱い、一般団体は前年比87.4%と前年を下回った。学生団体は同104.5%と好調に推移したが、団体旅行合計では同97.9%と前年をやや下回った。企画旅行については同93.1%と前年を下回ったが、個人旅行については同104.4%と前年を上回った。

この結果、国内旅行総取扱額としては、95.9%と前年を下回った。

外国人旅行は、前年比146.6%と前年を大きく上回った。

以上の結果、ホールディングス主要会社の1月の総取扱額は前年比92.9%となり、前年を下回った。

【主要会社の状況】

1. 近畿日本ツーリスト株式会社

海外団体については、一般団体は昨年複数の大型SITツアーや招待旅行を取り扱った反動もあり、前年比77.0%となった。学生団体については修学旅行および修学旅行以外の団体の取扱い増加により同141.8%と前年を大きく上回った。この結果、海外団体旅行合計で同93.8%と前年を下回った。

国内団体については、一般団体は前年に複数の企業系コンベンションを取り扱った影響もあり、前年比85.4%と下回った。学生団体は特に修学旅行以外の取扱いが増加し同104.5%と前年を上回ったが、国内団体旅行合計で前年比97.2%とやや下回った。

2. 近畿日本ツーリスト個人旅行株式会社

メイトは、取扱額で前年比89.8%と前年を下回った。方面別取扱人数の状況では、関西方面が好調を維持しているのに加え、北海道・東海地方（中部・浜名湖）方面も好調であった。

ホリデイは、引き続き東アジア方面を中心として全般的に不調である。各方面とも低価格帯商品のラインナップを縮小させた影響もあり、全体の取扱人数、取扱額とも前年を下回った。

3. クラブツーリズム株式会社

海外旅行部門は、中欧を除くヨーロッパとアラスカチャーターなど欧米がけん引した。オセアニアも引き続き好調に推移しており、取扱額で前年比100.0%と前年を維持した。

バス旅行を除く国内旅行部門は、北海道、九州、沖縄といった遠距離地域の販売が伸び悩み、同90.1%と前年を下回った。バス旅行部門は、年末年始設定のコースが不振であり、併せてバス新運賃制度に伴う売上減も響き、同90.6%と前年を下回った。

テーマ旅行部門は、国内の「ひとり旅」や「写真の旅」「寺旅」等が好調であり、同101.2%と前年を上回った。

以上